

ヤマ・サトとマチをつなぐメディアづくり ～農山村における地域資源の発掘・活用と関係人口の創出～

#地域資源
#関係人口
#音風景

DATA

主な連携先・メンバー

NPO 法人愛のまちエコ倶楽部／音雨音木工所／箕川未来協議会

活動地域

滋賀県東近江市愛東地区・奥永源寺地区（ヤマ・サト側）
／大阪府吹田市（マチ側）

活動期間

2022年6月～継続中

活動資金

地域連携活動に対する補助事業



「つながる市」の様子

目的

農山村地域の課題解決をみすえ、「ヤマとマチをつなぐメディアづくり」というコンセプトを軸に、地域の主体と連携しながら交流・関係人口創出のための調査・実践を行う。

活動内容

2023年度までの試作品の開発や展示会等での経験をふまえ、木製フードスタンドの販売を実現させた。具体的には、無印良品トナリエ南千里アネックス店で開催された「つながる市」（2024年7月27日・28日開催）に出店し販売を成功させた。販売にむけて、プロジェクト説明用と商品説明用のパンフレットとポスターを作成した。また、商品化するにあたり、パッケージおよびタグ等のデザインをつくりあげた。（商品名「つなぐフードスタンド～木愛～」）

ヤマへの直接的なアプローチとしては、山間部の集落において音風景調査を昨年からの実施してきた。具体的には、夏から秋、冬にむけて

連携にいたる経緯

東近江市愛東地区にて愛のまちエコ倶楽部の協力のもと、2022年6月より地域（サト）の木工職人と学生（マチ）のコラボによる木製品（ヤマの資源）の開発を開始。2023年度は試作品をもとに市場調査や展示会への出展を行い、山村での音風景調査による地域文化の掘り起こしを開始し、2024年度の活動へとつながった。

の季節の変化を軸として、住民への地域の音風景の記憶を掘り下げるヒヤリングと、実際の音環境の観察・録音を行ったうえで、「サウンドマップ」を作成し、地元へ還元した。

上記活動をより円滑にし、さらに連携を強めるために、愛東地区（サト）での農作業のサポートや、奥永源寺地区（ヤマ）での清掃活動等の地域行事への参加・協力などにも積極的に取り組んだ。

大学でのサウンドマップ作成風景



音風景調査



「つながる市」での販売の様子



活動の成果

- ▶▶ 地域資源を活用した木製製品を開発し、販売を実現させた。
- ▶▶ 音風景の観点から山村の生活環境文化を掘り起こし、可視化した。
- ▶▶ マチの学生が、ヤマ・サトの活動に参加し、相互の連携を強めた。

連携先からの一言

学生のみなさんに度々足を運んでもらい、実際に体を動かしながら、外の視点や若い視点で地域へのアイデアもいただいています。その学びと実践は、同時に地域側の活力や新たな取組みのヒントにも繋がっています。

(NPO 法人愛のまちエコ倶楽部)

今後の課題・目標・展開の可能性

- ▶▶ 大学や販売事業者との連携を強化し、木製製品販売のビジネスモデル化をめざす。
- ▶▶ 大学・学生のヤマ・サトのアクターとの連携継続のための仕組みをつくる。

社会学部 教授 大門 信也 Daimon Shinya



専門は環境社会学。地域の記憶の掘り起こしや、ヒト・モノ・カネの循環等の切り口から、中山間地域と都市部をつなぐ実践に、学生たちと取り組んでいる。

